

# 会 議 録

- 1 開催した会議の名称 …… 令和5年度佐賀県立九州陶磁文化館協議会
- 2 開催日時 …………… 令和5年8月3日(木)13時30分から15時30分まで
- 3 開催場所 …………… (所在地)西松浦郡有田町戸杓乙3100-1  
(会場名)佐賀県立九州陶磁文化館 会議室
- 4 出席者 …………… (委 員)今泉委員長、村上副委員長、青木委員、蒲地委員、小林委員、  
酒井田委員、富田委員、古川(宗)委員、松尾(佳)委員、武藤委員、  
藤田委員、古川(朋)委員、松尾(あ)委員  
(事務局)鈴田館長、加藤統括副館長、徳永シニア・アドバイザー・フェロー、  
福田企画総務課長、藤原学芸課長、大久保係長、芳野主査、宮木主査、  
野田主事、巖主事  
(オブザーバー)古賀企画主幹(文化課)

## 5 議題

- (1) 委員長、副委員長の選出について
- (2) 九州陶磁文化館の運営について
  - ① 令和4年度事業実績について
  - ② 令和5年度事業計画について
- (3) その他

## 6 会議録

(事務局)

ただいまから令和5年度佐賀県立九州陶磁文化館協議会を開会いたします。

開会に当たりまして、館長の鈴田が御挨拶申し上げます。

(館長)

猛暑の中お集まりいただきまして、ありがとうございます。

この協議会は年に1回ですが、外部の方から九陶がどう見られているか、今後、九陶がどういう活動をしていくかなどを聴く貴重な機会だと思っています。今日は、忌憚のない意見を遠慮されずに自由に発言していただければと思います。よろしくお願いいたします。

(事務局)

6月23日付けて協議会委員の改選が行われていますので、委員の皆様を御紹介いたします。会議資料の5ページに委員名簿を記載していますので、御参照ください。

(委員紹介)

令和7年6月22日までの2年間の任期となっていますので、どうかよろしくお願いいたします。

引き続き、当館職員から自己紹介させていただきます。資料6ページに職員の一覧を記載しています。

(職員自己紹介)

本日は、オブザーバーとして県文化課から出席しています。

(自己紹介)

それでは、議事に入ります。初めに、委員長、副委員長の選出についてです。

当協議会施行規則第 3 条に「協議会は、委員の中から委員長及び副委員長 1 名を選挙しなければならない。」と規定されています。どなたか御推薦はございませんか。

特に推薦がないようでしたら、事務局から、引き続き、委員長に今泉委員、副委員長に村上委員の就任を提案いたします。いかがでしょうか。

(一同拍手)

それでは、委員長に今泉委員、副委員長に村上委員ということで、どうぞよろしく願いいたします。

施行規則第 3 条第 2 項の規定により議事進行は委員長に行っていただくようになっています。ここからは今泉委員長に議事進行をお願いしたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

(委員長)

委員長を引き受けることになりました。どうぞよろしく願いいたします。

先ほども鈴田館長から遠慮なくという話がありました。この協議会は、皆さん遠慮なく意見を言われる会だと思っています。「協議会での主な意見と対応」という資料がありますが、この委員会で出てきた意見は、九州陶磁文化館で対応していただいているありがたいことだと思っています。

それでは、議事進行の協力についてよろしく願いいたします。議題 2 の「九州陶磁文化館の運営について」、事務局から「令和 4 年度事業実績について」と「令和 5 年度事業計画について」まとめて説明をお願いします。

(事務局)

(資料により説明)

(委員長)

ありがとうございました。ただ今の事務局の説明について、皆さんからの意見、ご質問をお受けします。挙手の上お願いします。

(委員)

広報関連で、これからは SNS でどれだけ発信するかが大事だと思っています。いい記事を書くことも大事ですが、どう広く読まれるかが大事な点になっています。SNSは、ツイッターもされていますか。

(事務局)

メインはフェイスブックとインスタグラムで、ツイッターはあまり更新できていません。

(委員)

うまいなと思うツイッターは告知だけじゃなく、日常を違う視点でお知らせしたり、こういう隠れたものがありますといったものです。ここにはよいグッズがたくさんあって、もうちょっとPRしないともったいない。イベント告知じゃなくて、今日はこれを紹介しますとお勧めグッズを紹介したり、ツイッターやインスタで気が向いた時でいいので発信する。そういう発信をしていかないと広く届いていかない。特に若い人に届いていかない。今の時代は、広く浅くってというのは大事だと思います。職員に自由に載せてくださるのではなく、どなたかSNSの専門のグループかにしてもらった方がいいのかなと思います。

(委員)

私も九陶のインスタグラムをフォローしています。すごくかたい時もあれば、花が咲きました、この場所が好きですという投稿もあって、変化があります。インスタグラムやツイッター、最近はスレッドなどもありますが、投稿の手間が面倒であれば、担当の方が得意なところに投稿して、それをツイッターなどにも貼り付ければいいのかと感じました。

7月22日に行ったはしおきづくりは20名定員にしていたのですが、26名の方が参加しました。伊万里と有田の方が多かったのですが、佐賀市内と福岡からお越しいただきました。どのようにしてはしおきづくりを知りましたかとお聞きしたら、伊万里と有田の方は幼稚園や小学校からチラシを持って帰ってきた、佐賀と福岡の方はホームページを見てとおっしゃいました。遠くに届けるには、インスタグラムもそうですけど、今までどおりのホームページという形でファンの方が見ていらっしゃるの、すごくいいかなと思いました。小学校5年生の女の子が九陶のホームページをチェックしていて、はしおきづくりをしたいと思いますという感動的なエピソードがありました。すばらしい方が育っているなど思った嬉しい出来事でした。

(委員長)

ありがとうございます。今のことに関連することでも全く違うことでもいいです。

(委員)

この会議は、入館者を増やしたり、どう認知してもらうかというところで話合いをしていると認識しています。私は有田の窯業の家に生まれ育って、今は西地区の農業の家にいるのですが、子育ても終わって娘たちや遠方に出てる子どもたちが友達を連れて有田に戻ってくると有田のどこに連れて行こうっていう話をします。入館者のグラフを見て、上がるときにもっと上げるのもいいんですが谷をどう上げていくかっていうところを取り組むって意味で夏休みイベントをされているんだと思って、すごくいいことだと思います。有田町内で小学生がいらっしゃるところは、こういうチラシをもらって来て情報が届くと思うんですが、反対に遠くから孫が帰ってくるところにはなかなか届いてないと思っています。回覧版で回っているものもありますが、夏休みイベントのチラシは回覧版では回ってきていないように思いますので、全戸配布は無理だと思うんですが、回覧版だけでも回してもらえればと思います。

ここはクーラーもきいていますし、喜ばせる案内をしていただける館長や若い学芸員の方もいらっしゃいます。案内しそこねたのですが、三右衛門先生の器で飲めるっていうものもあります。

リニューアル後は、子どもも大人も来やすく家族何世代でも一緒に学べる身近な感じのミュージアムだと本当に実感しています。私も近所の方には、帰省の際にはぜひお勧めをしたいと思うんですが、こういう夏

休みイベントを回覧板でも回していただければと思います。

(委員長)

せっかくいい企画をされていますので、それをどう伝えていくかですね。

去年の12月にされた企画展は、個人かグループの方の展覧会でしたが、そういうことができると思っていない。

(事務局)

「工芸考写」展は、新進気鋭の若い実力のある方がグループとして利用するというありがたいものでした。こうした画期的な若い方の発表の場は、今後もあってほしいなという思いがしました。展示の仕方も映像を組み合わせたり、天井の照明をかなり落としてもものにスポットを当てたりして、学芸員としてもこういうやり方があるのかと勉強になりました。

来年度は、個展のようなものをしたいというオファーが2件あります。

(委員長)

ありがとうございます。

(委員)

昨今の九州陶磁文化館の動きは、すごく開かれた美術館になっていると感じています。いろんなイベントで来場者を楽しませるようになっていますが、地元の人がなかなかやってきてないのかなと感じています。弊社では、会社の社員研修などでもイベントや柴田コレクションもできるだけ見るように心がけていますが、多くの企業では、まだまだ活用されているとまでは言えないかなと思っています。新入社員の入社時などには必ずこちらを見てもらうようなことをアピールすることも必要かと思っています。

美術館とは関係ないんですが、有田工業高校生で内山地区を歩いたことがない生徒が多いらしいということを知ってショッキングでした。有田の学校に通っているのに有田町内の街並みのことは知らない、有田にある施設なのに有田に関係している人が利用していないということが残念だと思います。

具体的な案はありませんが、SNSは若い人が使っていますので、こういうものを活用できればと思います。

(委員長)

ありがとうございます。はいどうぞ。

(委員)

この会議に参加させていただき、すごく興味深く話を聞かせていただいています。有工の卒業制作展は度々拝見していますが、昨年、リニューアルしたという話を聞いて、近くにいながら何回かしか行ったことがなかったの、ちょっと行ってみようかと家族で行ったらすごくすてきになっていました。体験もできますし、しかも無料です。

生徒たちにもぜひ行かせたいと思っていますが、子どもたちと美術部顧問との日程調整がうまくいかずに、まだ行けていません。ぜひ学校に来ていただいてお話を聞く機会を設けたいし、九陶に出向いて鑑賞させていただいたりしたいと思ったところです。

因みに、出前講座は、どういう内容でどの学年どの時間にということと、具体的なものは無いのですが施

設を借りる場合の使用料はどうか教えてください。

(事務局)

出前講座で話をする内容はちらしで案内していますが、要望される側のリクエストに沿った形で行います。学校の場合は先生から話を聞きながら時間も含めて要望に沿って行います。学校だけでなく、企業や団体にも対応しています。1か月前くらいまでに相談いただいて、県内で通常行ける時間であれば費用は発生しません。学校に関しては、当館では3万近くの古陶磁を収蔵していますので、実物を持って行って子どもたちに触ってもらうことを提案しています。今年は、佐賀大学附属小学校の授業で、400年くらい前の唐津焼と有田焼の二つを持って行きました。実際に本物を見て触るという機会があまりないので、喜んでいただけたいと思います。

エントランスホールは、当館と協働ということで提案された内容に沿って期間など話をさせていただきます。館との協働で実施をする場合は、基本的に使用料は発生しません。ケースバイケースでできることできないことがありますので、まずは御相談ください。

(委員長)

ありがとうございます。

(委員)

私は、学童保育の指導員としても働いています。1年生が入学した後の学童保育で必ず九陶の駐車場まで遊びに行きます。というのも、中に行く大事なものがあるので、子どもたちがちゃんと見てくれるだろうか、私たちの指導が行き届かないという不安もあって、中に入らないよう遠慮させてもらっているのが実情です。

でも、実は、お絵かき会をしてもいいのかなと思っています。先月末の講演会で、フランスのルイ・ヴィトンの美術館に行かれた話をされたのですが、バスキアとウォーホルの合同展にフランスの子どもたちが行って、展示品の前で絵を模倣するスケッチ大会をやったというのを聞きました。本物を見ながら手に触れるという親としてはありがたい体験をさせてもらうのですが、もっと昔の技術を自分でも体験するとか。有田の焼き物の文様を以外と子どもたちは書いています。そういう文様が子どもたちの頭の中や体の中から染み出てくるんです。私も、こちらのやきものバッジをつくるイベントなどに参加しましたが、今まで模写はしたことがなかったと思います。

(委員長)

ぜひ館内までよろしく願います。工芸のワークショップで、普段は5分も同じ場所にいられない子どもが1時間半ずっと何かをつくったという話もありますし、子どもたちはこちらが思っていないことを真剣にすることがあります。どうぞ。

(委員)

今のはフランスの話ですが、大英博物館では、その前でみんな絵を描いています。いつも全国の皆さんに自慢するんですけど、よその地域に比べて有田の子の絵や習字はずば抜けてうまいです。それだけ本物を見ているということです。

今日、車で来たときに6人ぐらいのイタリア人が南米系の方がいらっしゃいました。海外の方への発信は、どうされていますか。

(事務局)

フェイスブックは英文でも載せていますし、英文のホームページもあります。韓国も中国も、団体はまだそこまで増えていないので、個人や小グループで来られています。何を見て来館しているかは聞いていません。

(委員)

毎日、海外の方が来られていると説明がありましたが、私も有田で毎日海外の方を見ます。九陶もありアリティセラもあり、インバウンド、特に欧米系は有田は強い。外国の大使が来られたときは、タイミングが合えば九陶も御案内するよう言われていますし、非常にありがたいと思っています。リニューアルして、佐賀の友達がとてもよかった、親子で楽しめたと言っていました。やきものとデジタルは、全然相反するものに見えますが、評価が高かったことを嬉しく感じています。

駅については、私も駅から九陶までがゴールだと思っていますが、夏の暑さのせいも、残念なことに真っすぐの道に人がいない状況が続いています。九陶がゴールと思って有田駅も含めて担当課と何かしないと元気がなくなっていくと思いますので、力を入れたいと思います。

最後に、いろいろところで勉強していると文化観光という言葉が出てきます。産業観光は結構ありましたが、コロナで世の中が止まってしまって改めて文化観光ですが、有田は産業観光プラス文化観光ができる稀有な町だと思っています。そこを一生懸命磨き上げたいと思いますので、九陶と一緒にやっていければと思っています。

(委員長)

ありがとうございます。先ほど言われた九陶でお絵描きするというのは大丈夫ですか。美術館によっては、ペンはだめだったり、鉛筆は大丈夫だったりしますが。

(事務局)

実際には、来館者からスケッチをしたいという相談があって対応しています。お子様ははしゃいだりすることも多少あるかと思いますが、他の来館者の迷惑にならないような配慮をお願いしています。筆記用具については、絵画を直に飾っているわけではないので、通常のペンは差し支えありませんが、油性のマジックなどは難しい。鉛筆やクレパスなどは問題ないと思います。よくあるのは、展示ケースを下敷きにされて絵を描くということで、これはほかの方の支障になります。基本的には、来館して楽しんでもらった方が身近に感じていただけたと思っています。お絵描きをやってないということではありませんので、まず御相談ください。絵を描くときには子どもも真剣に見ています。気づかない発見があったり意外な才能が出てきたりするかもしれません。ぜひいろんな使い方を相談していただければと思います。

(委員)

私は先ほどのスライドを見て、コロナ禍は大変だったけれども、いよいよそれを抜けて九陶がもっと大きく頑張れるときがやってきたなというふうに思いながらお聞きしていました。私自身は佐賀に住んでいますが、有田に来るのがすごく楽しみなんです。町全体が一つの美術品のように思えて、特にこの九陶があるということを佐賀県民として誇りを持って頑張ってる多くの方たちに知っていただけたらなというふうに思っています。

本当に素晴らしい作家たちの作品を間近に見ることができそうですし、リニューアルしてからは古い時代から今日に至るまでの順を追っての展示など、今日も少し早めに来てゆっくり見てまわりました。友達にも有田に

行こう九陶を見ようということをもっともっと言わなくちゃいけないなということを感じた次第です。

道路標示も、もう少し早く九州陶磁文化館が分かるようにしてないと曲がりそこなったりしますので、その辺りも県に言わなきゃいけないなというふうに思っていました。

私も SNS を多少ですけどやっていますので、今日はいろいろな作品を見せていただいたので、そういうのも発信して、有田に行こう、九陶を見ようという言葉を含い言葉にしていきたいなというふうに思っているところです。

(委員長)

どうもありがとうございます。

(事務局)

佐賀から東側の人にとって有田はものすごく遠い存在と聞いたことがあります。西の方は遠いというイメージがあって、東側の人是有田に来たことがない人が多いらしいと。

(委員)

今回初めて参加して、皆様の意見を聞かせていただいています。確かに私たちは毎月例会をしますが、九陶で何かコレクションがあったとしても行きましようっていう方は少ないです。今日の資料を見て、こんなにすばらしいんだ、皆さんで行きましようと伝えようと感じました。昨日の会議で、役員から、あそこにお茶室があるでしょうって言われました。今思えば、ここは立礼の席を使わせてもらって、今右衛門さんの吹付の水指を使わって向こうの茶室で一席持ちました。会員の者が、コレクションか何かあるようなときに、お席を持たせていただいたらいかがですかということをしていました。

中学校や高校も全部で 93 校ぐらいありますし、毎年いろいろな合同茶会や研修会をしていますので、たまには館長の講義を聴いたりして東の方からもっとこちらの方に来るのがいいかなと考えたところです。

(事務局)

有田のメンバーが多いので、茶陶関係、土物、唐津—茶道は土物がどうしても主体なので、その辺が傍から見ると物足りないと思われています。前はあったんですが、茶会もなかなかするチャンスがありません。

(委員)

知事も唐津に物すごく力を入れていらっしゃいます。有田の方にも何かですね。

(事務局)

うちは九州陶磁文化館で有田陶磁美術館ではありません。その辺が悩ましいところです。有田一本でいった方がかえって九陶のイメージが分かりやすいということで、今回の展示室は、有田焼の歴史をきちんと示そうと変えたんです。おかげさまで評判はいいです。でも、土物の産地や唐津からはちょっとイメージが遠くなってしまうました。

(委員長)

そうした点を含めて、どうぞ。

(委員)

事前配付資料の 13 ページに円グラフ(団体入館者内訳)があり、県内が 69%、九州各県が 8%となっていますが、詳しく調べなくていいのかと思います。ここでしか見られない風景や展示もあって本当にすばらしく、図録も世界一と言ってもいいほどの充実ぶりなのですが、県外からの来館者をもっと増やしたいと思われるのかという疑問です。紙媒体のちらしは物理的に遠いところには届かないので、ネットに載せないと届きません。1 回ネットに載せて夏休みには九陶でこれがあるんだと知った人は、来年は行こうと思うかもしれませんが。紙媒体に頼り過ぎではないかなって思うのが一つです。新聞を読まない若い世代が増えてきて、テレビも見ずネットで生活しています。そういう若い層、特に有田から離れた地域の若い人たちで、やきものに少しでも興味があるような若者に本当にアピールしようと思ったら媒体は紙以外を考えるべきかなという時代になっています。九州各県から来る人を来年は倍増させようなど、今年の計画みたいなものを立てられてそれに向けて、いろいろな課題の中のどれかに 1、2 年チャレンジしていく、それが成功したら次の課題に行くみたいな形で、佐賀県外にもいっぱい人が住んでいますので、少し工夫されたら行ってみようかと思う可能性もあると思います。福岡市だけで 160 万人いますので、そこから呼ばない手はないと思います。

もう 1 点、先ほどすてきなパンフレットがあったから手に取ったのですが、1 年間の有田のお祭りや歴史があって本当に充実しています。このパンフレットの 7 ページに「有田焼五膳」という、町内の四つのお店で有田焼でご飯が食べられるという企画があって、必ずセットで体験しようかなと思うような企画だと思うのですが、この情報を私は知りませんでした。このようなことを毎年恒例化されるのであれば、ホームページで毎年ゴールデンウィークは有田焼のランチが町の中で必ず食べられますみたいに、恒例で毎年やるってことさえ言っておけば、ある年行けなくても来年、再来年とか、長期的な宣伝として定着すると思います。子ども向けイベントは、定着しているようですが、大人向けイベントも毎年恒例化して、毎年やっていますみたいなことをネットにも張り続けて、福岡からも半日、1 日コースで見てお昼を食べてゆっくり帰るみたいな、そういうルートはあり得るんじゃないかなと思っています。

このパンフレットの 1 番後ろに空港からのアクセスがあって、長崎と福岡と佐賀空港からのアクセスが書いてありますが、時間的には長崎空港からのアクセスが 1 番近いわけですが、長崎空港からのお客さんをどういうふうに想定されていますか。ルートに合わせてしか人は来ないので、ターゲットを絞った宣伝手法があると思うんです。地域の人はチラシで、遠くの人にはネットで、外国の人には英語のネットでなど、あると思います。ターゲット別の戦略があると、地域の人だけじゃなく、外国人も多様な人がそれぞれ見て学べる場所に成長できるんじゃないかなと思っています。まず 13 ページのグラフを九州、県別ぐらいにすると何か傾向が分かるかなと思います。

3 ページ目に博物館法が載せてあります。去年の 4 月に改正され、大きな改正ポイントとして、デジタルアーカイブが推進されるべきという内容が入りましたし、博物館は教育普及の場、研究の場だけではなく、地域の課題解決のためにいろいろな部署と協力しなければいけない、そういう法律に変わりました。文化観光だとかを考えなければいけない喫緊の課題になっていますので、会議資料の昨年度の成果を 10 ページにざっくりまとめてありますが、もう少し細やかに情報発信についてはこういうことをしたとか、地域連携についてはどういうことをしたとか、細やかにまとめられると次に取り組んでいくことが見えてきたり、もう手をつけなくてもいいやとあきらめることも見えてきたりするのかなと。今のままでは、博物館法の改正に対応しない、ざっくりした内容に思いました。たくさんのご意見を要求して申し訳ないんですが、ぜひこのすばらしいコンテンツ、ソフトをより多くの佐賀県の人、県外の人、外国の人にも、やきものの歴史の奥深さに触れてほしいと願っていますので、検討いただきたいと思っています。



## (事務局)

福岡を無視しているわけではなく、福岡は近いので来てほしいと思っています。人口も大きいので、入館者対策として重視しています。名護屋城博物館も当館も県外のお客様の比率は多いんです。当館の特徴は、関西や関東の割合が多いということで、それは、有名な唐津焼や有田焼を前々から見に行きたいという関東や関西の人が多いということだと思います。ところが、福岡に限って言うと圧倒的に多いのは名護屋城博物館です。名護屋城博物館が当館より多いのは、呼子のイカを食べに行くからです。食はやきもの以上に強いです。食と絡ませて有田も頑張ればと思いますが、有田のごどうふよりやっぱりいかが強いです。福岡からの集客については、館のスタッフもいろいろと考えています。

資料 13 ページのグラフは、団体の入館者数です。県内には、地元の団体もありますが、小学校や中学校が含まれています。

関東から来られる人と福岡から来られる人では有田に来る旅行目的が違うんだと思います。関東から来られる人はやきもの産地として美術館を見て産地を回るし、福岡の人はやきもの買いに来ることが目的になっていると思います。関東などからの団体ツアーは観光として九陶が目的地になっていますが、福岡から来られる人は九陶には来たことがあるからここは外して、アリタセラなど買物がメインのツアーになる。こういうこともあると思います。福岡は大きなターゲットですので、そこに対するPRはやっています。紙媒体だけでなく、九陶のホームページもありますので、このチラシも含めてホームページに載せています。近くに限った広報をしているわけではありませんし、館で行ったはしおきづくりも館のホームページを見て知ったという話になります。

外国人に対しては、ホームページが基本でメインになります。イベント告知はフェイスブックなども使いますが、骨格はホームページです。見やすく、探したい情報がすぐに見つかるホームページになるよう、随時、工夫しているところです。

有田焼五膳は、陶器市期間だけでなく通年提供しています。いろいろなものがあって大々的に広報しているつもりですが、周知が足りないと感じました。

空港アクセスについては、ここは県の施設ですので佐賀空港の利用を促進しています。佐賀空港からはリムジンタクシーが利用できますので、乗換えせずに来すぐ有田まで来ることができます。有田は長崎にも近いので、長崎空港から入られる方もいらっしゃいます。

こちらからの告知だけでは広まっていけないので、福岡でも周知をしていただければと思います。館に来られた方が自分たちでSNSに載せていただいて広がっていくことが理想だと思っています。私たちは、来られた方が人に話したくなるような館にしていきたいと思っています。

## (委員)

皆さんの話を聞いていると、外に向かって広くという話になっています。私も、もちろんそう思いますし、今の時代は先ほど博物館法の改正という話がありましたが、博物館法だけでなく文化財保護法も改正され、文化財であっても観光を無視してやることは全くできませんので、そういうところに力を入れるのも大切だと思います。

逆に敢えて九陶の人に言いたいのですが、従来の調査研究をきちんとやってくださいということです。九陶も急に世代交代したようなメンバー構成になり、昔の九陶を知っている人がほとんどいなくなってしまいました。今日の資料の「協議会での主な意見と対応」に関して、「入館者数だけでない評価をきちんと持ってほしい」に対して「数値化は難しいが、地域や陶芸界での期待に答えられるよう九陶の役割を果たしていきたい」といかに役人が書くような回答があるんですが、具体的に動かれていることはありますか。

(事務局)

やっぱり入館者数だけでしか評価されない現実があります。九陶は県立博物館施設の中で一番入館者が少ないのですが、県はどう捉えていますか。

(県)

客観的な数字として一番分かりやすいのが入館者数ですので、総合計画などの目標になっています。ほかにはアンケートでの意見など、そういったところで評価することになります。

(委員)

そういうことを否定しているわけではなく、その上の方に「引き続き陶磁器研究を先導して行ってほしい」というのがあります。以前からの九陶がどうだったかということをおも知っていますが、入館者数とは関係なく、九陶は全国的に陶磁器の研究の頂点です。

私が大学院生の頃は、全国的に考古学での陶磁器の研究はありませんでした。その頃、(東京の)五島美術館で大橋さんと鈴田さんが焼き物の分類のシールを貼っていたのを見て私はびっくりしました。あれがはしりです。そこぐらいから考古学が目覚めて、東京の大名屋敷など一気に発掘調査が進みました。当時はまだ、近世は調査しなかったのですが、開発するので大名屋敷を調査しなければいけませんでした。

その頃、九陶で開催された企画展はやっぱりすごいなと思いました。そのあともずっといろいろな企画展を通じて常に新しい、全体の研究の一步前を九陶が行かれていたのです。普及もいいのですが、そういうところを忘れないでくださいということをお願いしたいと思います。

(事務局)

おかげで研究紀要は復活しました。論文を書くのはものすごい労力ですが、若い人に頑張ってもらいたいと思っています。

(委員)

うまく引き継いでください。

(委員長)

九陶の研究の成果で近世考古学という学問が確立されていますし、九陶の研究によっていろんなコレクターの方が九陶に寄贈したいと言ってやきものを寄贈されています。入館者だけでなく寄贈されたもので。

(事務局)

寄贈点数で評価してください。ほかの館と比べて点数も評価金額も断トツです。

(委員)

館を評価していなければ寄贈するという話になりません。九陶が外のことはしっかりやって基盤の部分をきちんとやってないと寄贈もなくなります。

(事務局)

寄贈で思い出しましたが、収蔵庫問題は当館だけの問題ではありません。県立博物館もそうですが、寄

贈の申し出があってもまずスペースがありません。収蔵スペースがなければ博物館活動の3本柱の一つである資料の収集ができない、増やせないということです。監査委員からも指摘されましたが、当館だけの問題ではありません。収蔵庫は費用がかかりますが、セールスポイントになりませんし評価されません。

(委員長)

緊急というところで収蔵庫の問題はすごく大切なことです。今後に向けてすごく大切です。

(委員)

前にも話したことがあったかもしれませんが、職人を九陶につれて来て、収蔵庫で収蔵品を見せてもらって、それをベースにして昔のものを復刻するとか、そういうことはできますか。販売にもつながってきますが、そういう勉強会は可能でしょうか。

(事務局)

それは多いに可能です。あまり知られていませんが、有田の絵付職人さんたちの勉強会が十数年続いています。文様研究会と言いますが、柴田コレクションを毎月十点左右ばかり選んで観察して、手に取って写真を撮ってもらっています。それは絵付けのグループですが、成型は成型で関心がある人も、職人さんの研究の場は全然OKです。

(委員)

計画したいと思います。

話を聞いていて思ったのですが、子どもさんをたくさん来館させたいという話もあったので、解説文を子どもでも分かるような専門用語ではなく分かりやすいものにして、文字も大きくして、背の低い人にも読みやすい解説文を付けたらどうかと思います。詳しく有田焼を知りたい方、それだけは情報として足りないという方には、スマホで読みこむと詳細なものが出てくるというのがあるといいのかと、そこにホームページや、作家や窯の情報を組み込んでいくと、九陶の次に行く目的地ができます。観光の流れ、次にどこに行こうかという感じでできるので、こういうことも楽しいと思います。

(事務局)

QRコードが一番手っ取り早い。QRコードならなんとかできるのでは。

(委員)

最近は、館内撮影禁止は少なくなってきていますが、撮影やQRコードの読取がOKであれば、そういうことが可能になるのかなと思いました。

(事務局)

基本的に個人利用の撮影はOKです。現代の作家を紹介している展示室で、窯元や作家のことを知りたいという要望をいただきますので、今後、現代の陶芸家の情報につながるように工夫していきます。

(委員)

観光のことが出ていましたので、やきものというキーワードで、九陶でツアーのようなものをつくれな

と思います。西は農業地区でもありますので、そういう人たちと連携して食も絡めたツアー、短いものや宿泊付きの2日など、九陶中心でツアー会社も絡めてできるか分かりませんが、ちょっと絡まれてくれたらいいのかなと思います。

(事務局)

よそから提案がある場合は協力していくつかツアーも企画が実現しています。

(委員)

町内には、今右衛門先生と柿右衛門先生がいらっしゃいますので、観光協会が企画して、超富裕層の海外の人たちの誘致に向けて、彼らは自分たちだけの特別というものがないと来ないので、例えば、九陶の普通は案内しない場所など、何かシークレットを出してもらえばいいかなと思います。宿泊の問題はありますが、九陶に行かれて、今右衛門先生、柿右衛門先生のところに行かれると、さらに深みが違うと思うんです。ということでちょっと頑張っていきます。

(委員長)

ほかにいらっしゃいますか。ないようでしたら、議題3はその他となっています。事務局から何かありますか。

(事務局)

その他の議題としては特に用意していませんが、御紹介します。現在、夏休みイベントということで、エントランスホールで子ども向けのイベントを行っています。また、第5展示室では、第44回九州新工芸展を開催しています。この後、お時間が許される方は、ご覧いただければと思います。館内の案内を御希望の方はどうぞお申し出ください。

(委員長)

ありがとうございます。

これで提案された全ての議題の審議は終了します。皆様のご意見が今後の九州陶磁文化館の運営に活かされることを期待します。ありがとうございます。

(事務局)

今泉委員長、議事進行ありがとうございました。最後に、館長からお礼の言葉を申し上げます。

(館長)

2時間にわたりご参加いただきありがとうございました。来年また1年間頑張った結果を報告したいと思います。今日はありがとうございました。

(事務局)

以上をもちまして、令和5年度佐賀県立九州陶磁文化館協議会を閉会いたします。どうもありがとうございました。